



E! Talk's

02

編集・発行

サンメッセ株式会社 コーポレートコミュニケーション戦略推進室
E-mail ircsr@sunmesse.co.jp URL <http://www.sunmesse.co.jp/>

2015 Autumn
Vol.

ご紹介企業

NPO法人 人と動物の共生センター

ファシリテーター：
サンメッセ株式会社 コーポレートコミュニケーション戦略推進室長 田中 信康

2015年12月5日(土)、東京新宿区のアリミノホールにて「ペット産業の社会的責任を考える」と題したシンポジウムを主催する「NPO法人 人と動物の共生センター」。今回は同法人理事長の奥田順之氏と基調講演を務める「IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]」代表者の川北秀人氏による事前対談を行い、本シンポジウムにおけるポイントをご紹介します。2016年から2017年にかけて持続可能なサプライチェーンの国際ガイドラインISO20400が発行予定の中、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックは、このISO20400に準じて開催される初のオリンピックとなると見られています。また、環境省からは、子犬をペットとして販売するブリーダーに対して、親犬に過度な負担をかける繁殖を避けるために、年間の繁殖回数に制限を設けると報じられました。多くの企業が直接・間接に関与するペット産業は、CSRにどのように取り組むべきか。シンポジウムを目前に控えた両氏に論点をたずねました。

ペット産業の社会的責任を考える

～NPO法人 人と動物の共生センター～

〈ファシリテーター：田中(以下田中)〉今回のシンポジウムはペット産業とその取引先企業が抱える様々な課題にフォーカスをあて、関連する多様な企業に備えを促すという、画期的な試みだと思われます。

川北さん：ペット産業も、餌や関連グッズなどその野が広い産業であり、業界全体の課題としてお話ししたいと思います。

その前提となるのが、ISOの枠組みの整備が進んでいることです。

ロンドンオリンピック・パラリンピックに向けて「持続可能なイベント」のための国際規格ISO20121が2008年に発行され、東京は立候補の時点からこれに「準拠する」と宣言しています。2010年には、企業だけでなく「すべての組織の社会責任」のガイダンス文書としてISO26000が発行され、2016年から2017年にかけて「持続可能な調達」に関するガイダンス文書としてISO20400*1が発行される見込みです。つまり、東京オリンピック・パラリンピックのスポンサーはもちろん、納入業者も、自らはもとより、取引先も含めた取り組みが求められます。



<http://www.sr-com.org/151205leaf.pdf>

シンポジウム
「ペット産業の社会的責任を考える」

日時 2015年12月5日(土) 13:30～17:00

会場 アリミノホール(高田馬場)

詳細はP4をご参照ください。

奥田さん:例えばペットフードについては、良質な原料にこだわったものから、人間用の食料の残渣、例えば骨や羽など本来消化できない廃棄物を利用している商品まであり、そのあたりの情報を消費者に開示しているかという問題もあります。

川北さん:なるほど。しかし、オリンピック・パラリンピックを控えて、海外のNGOからの注目が高まることを踏まえると、「生体取引」の在り方について議論が必要ですね。

奥田さん:そうですね。やはり「生体取引」「生体販売」に話題が集中すると思います。しかし、生体取引、生体販売がなければ川下の事業は成り立ちません。この話は、直接関係のなさそうな動物病院、ペットフード、トリマー、トリミングサロン、あるいはペット専用住宅など、垣根を越えた業界のさまざまな職種を巻き込んで取り組まなければなりません。

川北さん:生体を直接取り扱う業界だけでは課題解決できないなら、より広い分野を巻き込んで解決する方法を語り合う場が必要ですね。例えば、紙のリサイクルは、製紙会社だけでは進まない。再生しやすさを高めるためにはインクやトナーの製造会社や、再生紙の使用拡大には印刷会社も非常に大切なステークホルダーです。同様に今回も「何をどう適正化するために、誰を巻き込みたいか」という視点が重要です。サプライチェーン全体の問題としても良い。それぞれの立場から課題解決に向けて語り合うことで、「連携すれば解決できそうだ」と思っていただけることが必要ですから。

田中: サプライチェーンで課題を共有し、それを皆の持ち場で解決していくということが重要だということと感じます。そういった意味では、非常に範囲の広いテーマだと思いますので、まずはより多くの企業、関係者のご参加を期待したいですね。

奥田さん:しかし「ペット産業のCSR」と言われても、ピンと来る人が少ないのも現状です。

川北さん:誤解のないように当日も繰り返しお話ししますが(笑)、CSRは「余裕のある会社がする社会貢献」ではなく、規模の大小を問わず企業に問われる社会に対する責任のことです。「できる会社だけがする」のではなく、できなくなったら生き残れません。あえてオリンピック・パラリンピックを話題にしたのは、特に欧州の人々から見ると、日本のペット産業の現状には問題の指摘を避けられない。すると、生体販売にかかわってなくても、ペットに関連する事業を行っている企業にとって、欧州での不買運動やブランド毀損に結び付くリスクがあるということです。

奥田さん:私のまわりにはNPO系、動物愛護系の人が多いせいもありますが、生体販売をやっているショップでは買い物をしないという方は珍しくありません。現在は一部の方に限定されますが、裏を返せば感性の高い消費者でもあるわけで、そういう価値観が広がっていく可能性を感じています。

※1

「ISO20400」

あらゆる組織の調達機能に、持続可能な発展に対する責任を統合させるための規格。2010年に発行されたISO26000を調達行為に展開するためのガイダンスとして、ISO(国際標準化機構)が策定に向けた国際的な議論を進めている。

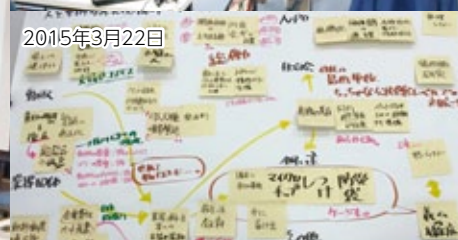
現在、委員会第4次原案(CD4)に対する各国の投票がとりまとめられており、順調にいくれば2017年にも国際規格として発行される可能性がある。



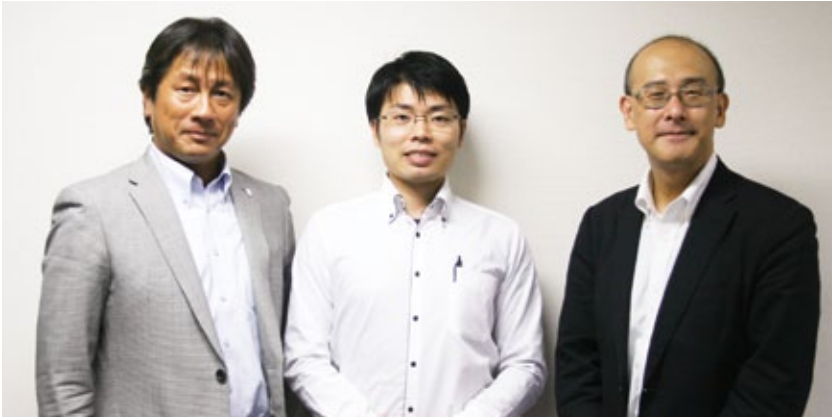
「犬の繁殖回数制限」

環境省は、子犬をペットとして販売するブリーダーやペットショップ等に対し、親犬への過度な負担を避けるため、年間の繁殖回数を制限する方向で調整に入った。

動物愛護法に基づいた新たな規制を議論する有識者検討会を年度内にも立ち上げる。検討会開催と併せ、過去の悪質なケースや業者に指導する上での課題について、実態調査を開始する。



▲「岐阜市の人と動物の共生を考えるタウンミーティング」
主催: NPO法人人と動物の共生センター 後援: 岐阜市、岐阜市教育委員会
2015年2月11日(祝)、当社・田中はパネリストとして「企業とCSR編」に参加した。



川北さん:日本では「あの会社からは買わない!」という積極的な不買運動はあまり盛んではありませんが、逆に「こうすれば、社会責任を果たし、信頼を得て利益に結びつきやすい」といった、企業の持続可能性を視野に入れたお話をせねばならないと思います。

おそらくほとんどの大企業にとって、ペット関連の事業の売上は、全社売上の中のわずかなシェアでしかない。しかし、だからこそ、その事業が契機で不買を起こされたら大変なことになる。人権と同じように、動物の権利についても尊重する必要があると我々が訴求する理由はそこにあります。

田中:今回「日本でこのようなシンポジウムを開催するのはおそらく初めてではないか」と、川北さんのメッセージを受け、その主旨に賛同し、昨年、岐阜市で行われたタウンミーティングにパネラーとして参加させていただいた経緯があります。今回は、東京開催であることに非常に大きな意味があると思います。

奥田さん:今後、一番の問題は生体の売り方だと思います。世界的な動物福祉の動きを考えれば店頭での展示販売という方法は難しくなるのではないのでしょうか。動物の成長発達にとって最も重要な若齢期にショーケースの中の限られた環境で生活させることは、海外の方から見れば動物虐待との指摘を受けても反論のしようがないでしょう。また、生体の繁殖方法についてもいわゆる「子犬工場」と言われる過密な環境下での過度な繁殖についても同様です。しかし、問題は人件費です。丁寧な繁殖販売をすればその分人件費がかかる。しかも消費者から見れば、手をかけてあってもそれを見分けることができないということもあります。そこで今後は欧米でおこなわれているように、ペットショップにおいて優良なブリーダーを紹介する様な形になっていくのではないかと思います。

川北さん:有機や減農薬でつくった野菜の販売とも通じるところがありますね。

奥田さん:「生体販売はしませんよ」という大手ショップができて、そういう価値を大切だと思う消費者が増えて、市場価値が変わっていけば、ペットショップからの要求が変化し、ブリーダーの業態も徐々に変わっていくことを期待しています。

理想としては、繁殖されている場所に飼い主さんがおとずれて、飼い主さんとなる人が「愛情をかけて育てているな」と納得されて、適正な価格で買っていく。その仲介をするのがペットショップという形が一番良いのではないかと、それが持続可能なのではないかと思います。

川北さん:私は今後、ペット産業のバリューチェーンのあり方が変わらざるを得ないと感じています。社会の変化に対して、企業はどう進化して対応できるか。持続可能性を高める経営を、ペット産業に関わる企業にも考えていただきたいのです。

野菜も「たくさん安く作って、たくさん食べてもらう」という時代から、「大切に育てて、大切に食べてもらう」時代へと変わってきている。それと同じことが、ペット産業にもできなければいけないと思います。それに向けて業界としてチャレンジしませんかと提案したいのです。

確かにSRには、「守られる責任」という側面もあります。

しかし「積極的に責任を果たすことによって、新しい価値を生んでいきましょう」と。さらに詳しいお話は、ぜひ当日、会場で!(笑)



奥田 順之 様

(NPO法人人と動物の共生センター 理事長)

2010年岐阜大学獣医学課程卒。獣医師(獣医動物行動学研究会会員)。大学在学時より、犬猫の譲渡仲介活動・殺処分問題を解決するプランコンテストなど殺処分問題解決に関する活動に携わる。卒業後は社会的合意形成を支援する企業において数々の合意形成プログラムの開発に参加し、その後は動物病院にて譲渡活動等を含む動物病院業務に従事。2012年「人と動物の共生センター」設立・理事長に就任。同年4月ドッグ&オーナーズスクールONELife開業。2014年4月ぎふ動物行動クリニック開業。



川北 秀人 様

(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表者)
(ソシオ・マネジメント編集発行人)

1987年京都大学卒業。(株)リクルートに入社。国際採用・広報・営業支援などを担当し、91年に退職。その後、国際青年交流NGOの日本代表や国会議員の政策担当秘書などを務め、94年にIIHOE設立。NPOや社会責任志向の企業のマネジメント、NPOと行政との協働の基盤づくり、CSRや環境・社会コミュニケーションの推進を支援。

Information

ペット産業の 社会的責任を 考える

**2015年
12月5日 土**

13:30~17:00

アリミノホール
(東京都新宿区下落合1-5-22 アリミノビル)

● 高田馬場駅より徒歩7分

参加費: 3,000円 当日受付にて併せて頂きます。

主催: 特定非営利活動法人人と動物の共生センター
協力: 一般社団法人ペットパーク流通協会
一般社団法人Do It Yourself
サンメッセ株式会社
一般社団法人SR連携プラットフォーム
後援: 犬猫の殺処分ゼロを目指す動物愛護議員連盟
協賛: 株式会社ラッシュジャパン

プログラム

13:30 主催者挨拶・趣旨説明 (特)人と動物の共生センター 理事長 奥田順之

13:40 基調講演「ペット産業に求められる社会的責任 ~人と動物と環境に対する企業の責任とは~」
IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表 川北秀人氏

14:30 「消費者から見たペット産業」調査報告と問題提起 (特)人と動物の共生センター 理事長 奥田順之

15:00 事例報告とパネルディスカッション[ペット産業のCSRを進めるために]
パネリスト
◆日本獣医生命科学大学 水越美奈氏 ペット産業が果たすべき動物福祉~動物行動の視点から~
◆(一社) ペットパーク流通協会 会長 上原勝三氏 ペット産業のCSR推進事例
◆IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表 川北秀人氏
◆コーディネーター: 奥田順之

パネリスト



川北秀人氏
(IIHOE)人と組織と地球のための国際研究所 代表



上原勝三氏
(一社) ペットパーク流通協会 会長



水越美奈氏
(日本獣医生命科学大学獣医学部 准教授)



奥田順之
(NPO)人と動物の共生センター 理事長

会場アクセス



アリミノホール
〒161-0033
東京都新宿区下落合1-5-22
TEL.03-3363-8211(代表) FAX.03-3362-3290
● JR 山手線、西武新宿線、地下鉄 東西線(出口1)利用
● 高田馬場駅(早稲田口)より徒歩5分(栄通り入る)

編集後記

「人と動物が幸せに暮らす社会」の実現に向け、今こそ私たちが真剣に考える時

本年2月11日、岐阜市にて行われた「人と動物の共生を考えるタウンミーティング」にパネリストとして参画し「当該分野における企業の社会的責任とCSRをどうリアルに関連づけられるであろうか」という視点で言及させていただいた。このタウンミーティングはこれまで計4回開催され、主催者の奥田さんを中心に、様々なステークホルダーを招いたダイアログをベースに、NPO法人 人と動物の共生センター名義にて「人と動物の共生都市に向けた私たちの提言」という形でアドボカシーを提唱している。

これらのテーマは、法的な問題やペット関連企業全体としての動きなど、非常にセンシティブな内容を含んでおり、政府機関である環境省でも「人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト」を平成25年11月に立ち上げてはいるもの、当該問題に対する国内全体の動きとしては、公表されている殺処分の数を見ても、まだまだ誇れるレベルに達していない。

いざさか話題は逸れるもの、数々の企業不祥事が途絶えない。しかも、その影響力は大きく、大企業におけるリスクマネジメント、コーポレートガバナンスがますます問われるものとなっている。

本紙取材記事におけるIIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者である川北さんのメッセージにもあるよう誤解を恐れぬ物言いをすれば、私たちが今、この問題を真剣に考え、真摯に取り組まねば、多くの日本企業が「ブランド棄損」という甚大なリスクに直面するといった看過できない事実が顕在化してきている。

企業活動を行う上で「環境」、「安全・安心」、「高品質」を保つためには、企業内におけるコンプライアンスと周辺業務に関わるすべての人々への周知浸透を徹底的に行うのはもちろん、今、改めて問われているのは、原材料⇒サプライヤー⇒R&D⇒生産⇒物流⇒販売・マーケティング⇒お客様へといった、バリューチェーン全体で企業価値の最大化に取り組むことこそが、非常に重要な視点であろう。

そんな時代の潮流の中で、場所を岐阜から東京に移し、更にはテーマをより広くし、業界全体という視点にて、知見の高い方々をお招きしてシンポジウムを開催する運びとなった。より多角的な視点からこの問題を真剣に考え、そしてアクションプランへと提言していくことが期待される。

12月5日(土)東京@高田馬場(アリミノホール)にて、多数のご来場をお待ちしております。
たいへん意義のある一日となることを確信しています。

サンメッセ株式会社
コーポレートコミュニケーション戦略推進室長 **田中 信康**
(経営倫理士)



「E! Talk's」では、毎号、読者の皆さまにとって企業活動のヒントとなるであろう「いいE!」話題を、Environment(環境)、Ethical(エシカル)、Economy(経済)などのキーワードを中心に、各企業、各界の方へのインタビュー(Talk)形式でご紹介してまいります。

本内容に関し、さらに詳しく聞きたい、各関連報告書作成の相談をしたい、等々、ご興味のある企業様は、弊社コンサルタントがお伺いのうえ、ご説明させていただきます。お気軽に担当営業までお問い合わせください。今後とも、弊社サンメッセ株式会社をご愛顧のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

本E! Talk'sは投資勧誘を意図して提供するものではありません。このレポートの掲載情報は信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。内容に関する一切の権利はサンメッセ(株)にあります。無断での複製・転載・転送等はご遠慮ください。